⑬　大　綱　院

往時をしのぶ下乗の石門

曹洞宗滝源山大綱院は、明徳３（１３９２）年、最乗寺３世であった大綱明宗禅師が、大雄山より豆州（伊豆国）蔵春院を退院して、赤田に隠居所として庵を作り、これを大綱庵と呼んだのが始まりだといわれています。

その後、寛文２（１６６２）年、大綱院と改め、千葉総寧寺の末寺となったと記されています。

開山の大綱明宗は甲州の人で、塩山の向嶽寺にて僧として修行を積み、そのときの師、得勝抜粋禅師が相州中村の人であったので、晩年をこの地で過ごされたのであろうといわれています。

※下乗(げじょう)　車馬に乗ったまま入ることを禁ずること。また，その旨を記して門前などに立てる制札

大綱院本堂